新卒看護師が体験するリアリティショックー就職後３か月に焦点を当てた調査よりー

藤浪千種[1)]、乾友紀[1)]、河野貴大[1)]、氏原恵子[1)]、山崎淑恵[1)]、寺田康祐[1)]、
北堀昌代[2)]、中村典子[3)]、大山末美[4)]、鈴木夏奈子[4)]、大石ふみ子[1)]
[1)] 聖隷クリストファー大学、[2)] 聖隷三方原病院、[3)] 聖隷浜松病院、[4)] 大阪歯科大学

【はじめに】新卒看護師が病院組織になじみ、高いパフォーマンスを発揮しながら活躍できることは、新卒看護師の満足感やモチベーションに繋がり、ひいては組織全体のパフォーマンスにも貢献する。しかし、新卒看護師が組織になじむためには、心理的適応課題であるリアリティショックの克服が必要であり、これが克服できない場合、身体的不調や心理的負担感の増強、意欲の低下が生じ、離職の一因となる事が報告されている。

【目的】就職後３か月の新卒看護師がどのようなリアリティショックを体験しているのかを明らかにし、新卒看護師のリアリティショック予防支援に関する資料を得ることである。

【方法】１．対象施設：本学卒業の新卒看護師を 10 名以上受け入れている病院（2 施設）、２．対象者：本学を 2022 年度に卒業し対象施設で看護師として勤務している者、３．データ収集期間：2023 年６月～８月、４．データ収集方法：インタビューガイドを用いた半構造化面接を対象者１名に対し１回 60 分程度で行った。５．データ収集内容：対象者属性（性別・勤務病院）、就職後に困った場面・出来事、うれしかったこと・励みとなったこと、就職後に努力や工夫してきたこと、課題等、６．データ分析方法：質的帰納的分析、７．倫理的配慮：本学倫理審査委員会（承認番号：23002）と研究施設の倫理審査委員会の承認を得た。なお本研究に関する利益相反はない。

【結果】対象者は９名得られた。新卒看護師が体験しているリアリティショックは、全データから 175 コード、21 サブカテゴリが得られ、「想像以上の仕事の厳しさ」「看護への違和感と責任の重さ」「期待や予想と異なる教育」「なりたい姿と異なる自分」「現在から予測する将来への不安」「組織の一員として働くことの困難」「人間関係の躓き」の７カテゴリに集約された。また、すべての対象者が複数のカテゴリのリアリティショックを体験しており、うち７名がすべてのカテゴリのリアリティショックを体験していた。

【考察】就職後３か月の新卒看護師が体験するリアリティショックは７カテゴリがあり、これらリアリティショックは、専門職としての社会化と組織の成員としての社会化の双方に関連する内容であった。また、対象者全員が複数のカテゴリを体験していたことから、リアリティショックは複数の要素が絡み合い発生していることも推察された。そのため、新卒看護師のリアリティショックを予防するためには、専門職としての社会化と組織の成員としての社会化の双方の視点を踏まえた支援が必要であることが示唆された。また、本研究で明らかになった７カテゴリは、日々の実践や組織内の身近な人との関わりに起因するものが多く、On-the-Job-Training における新卒看護師への支援がかなり重要なものであることが窺われた。

倫理審査	■承認番号（　23002　）□該当しない
利益相反	■なし　　□あり（　　）